2022年（令和4年）
3月23日
（第三種郵便物認可 昭和23年4月15日）
毎月3回発行（第1,第2,第3火曜日）

今号の特集

▷海藻類特集 ④面
▷缶詰特集 ⑤面
▷なめ茸特集 ⑥面
▷中食・惣菜特集 ⑦面

中部飲食料新聞社ホームページ
http://chuin.net/【業界情報発信中】

「味の素®」は、うま味調味料です。さとうきびの糖蜜を発酵させてつくっています。

第3433号
発行所
中部飲食料新聞社
名古屋市中村区名駅5－18－9
電話（052）571－7116代表
FAX（052）571－7118
東京支局
東京都中央区日本橋横山町1-4 203
電話（03）5614－7531
FAX（03）5614－7532

中部飲食料新聞

大正から 食を伝えて100有余年

イオンリテール
大規模改装を推進
熱田店は小商圏高占拠型へ

イオンリテール東海カンパニーは、商圏特性に応じたリニューアルで店舗競争力を高めている。

名古屋市熱田区の「イオンモール熱田」では改装を今年の春～秋にかけて実施し約30店舗を刷新。第1期を3月12日にリニューアルオープンした。

同モールは03年にオープンし19年目を迎える。16年に約35店舗を刷新し、19年にはフードコートの拡大リニューアルを行っている。今回はリニューアルコンセプトに〝～ずっと居られる熱田満載モール～ココロtoカラダステーション〟を掲げ、第1期は新規2店舗、移転10店舗、改装5店舗。第2期は新規11店舗、改装3店舗を実施。モールの方向性として地域とともに持続的に成長することを目指し、SCのコミュニティセンター化を推進。特にヘルス&ウエルネスでの満足を提供するべく、秋に健診・診療・リハビリ機能併設の総合医療施設を導入し地域の健康拠点となる。なお、クリニックではクリニック診察券機能とWAONカードの連携を予定する。

第1期のリニューアルではDHC直営店やSeriaが拡大オープンし、ハンバーグレストランのグリル蔵敷が愛知県に初出店。直営のイオン熱田店では食料品売場のレイアウトを見直し、生鮮食品を大幅に強化し、冷凍は地域最大級となるスペースで展開。量り売り惣菜のリワードキッチンやイートインコーナー、レジゴーの導入、スイーツコーナーの充実、こだわりの輸入食材を揃えるカフェランテの新設などにも取り組んだ。

三浦壽イオンモール熱田ゼネラルマネージャーは「今回の改装により広域商圏SCから小商圏高占拠SCに生まれ変わり、リニューアルよりリボーンと表現するのが相応しい。地域との共生を目指し地域の健康拠点、さらに交流の場として防災やファッションショーなども行いコミュニティの場を提供していきたい」とコメント。遠藤博イオン熱田店店長は「次世代のSC・リテールとして従来とは異なる考え方で店舗を見直した。当店ではこれまでは来店客はシニア層がメインとなっていたが、ミレニアル世代やそのファミリーへ広げ、アジアンコスメなどヘルスやビューティーで若年世代の取り込みを図る。地域最大級の冷凍食品コーナーや地場野菜の強化、カフェランテの展開などで支持を増やしていく」と方向性を説明した。

地域最大級の冷凍食品コーナー

永谷園
成田氏が4月1日社長就任

永谷園の代表取締役社長に成田健一氏（現取締役営業本部長）が4月1日付で就任する。現代表取締役社長の五十嵐仁氏は取締役会長に就く。

成田氏の略歴
▽1961年1月12日生 神奈川県出身▽立教大学経済学部卒▽83年永谷園（現永谷園ホールディングス）入社▽06年営業本部札幌営業所長▽08年営業本部統括部首都圏量販営業所長▽10年営業本部広域流通副部長▽11年営業本部統括部広島支店長▽15年永谷園（現永谷園ホールディングス）退職▽同年永谷園転籍、営業本部統括部広島支店長▽18年営業本部統括部名古屋支店長▽19年取締役営業本部長兼統括部長兼営業企画室長兼名古屋支店長▽同年取締役営業本部長兼営業企画室長▽20年取締役営業本部長

森永製菓「in」シリーズ
生活者の行動変容に対応

森永製菓は「inゼリー」及び「inバープロテイン」シリーズについて、人々の行動が大きく変容する昨今、これら変化への対応や拡大するニーズを捉えた提案などに注力、さらなる拡販と成長を図っている。

「inゼリー」はコロナ禍でさらに高まる健康ニーズに対応すべく〈マルチビタミン〉や3月22日に新たに発売した〝カロリーゼロ・糖類ゼロで1日分のビタミンが摂れる〟〈同カロリーゼロ〉、昨今女性などからのニーズが高まる〝鉄分〟などを配合した〈マルチミネラル〉など優れた栄養バランスが摂取できる商品を提案。リモートワーク時や受験時、近年盛り上がりを見せるeスポーツなどを含め〝考えるための エネルギーを脳に補給できる〟ブドウ糖を配合した〈エネルギーブドウ糖〉は期待の商品として訴求し育成に努める。

このほか、小腹満たしやモチベーションを上げたい時など様々なシーンで重宝する定番の〈エネルギー〉、スポーツ時などにおける〈エネルギー〉や〈プロテイン5g〉、さらに女性の健康間食ニーズを捉えた〈フルーツ食感〉シリーズなど、ウイズコロナやアフターコロナでも人々の多様なニーズに対応する商品ラインナップ展開や各種提案を図る。

「inバープロテイン」シリーズは、人々のダイエットや筋肉への関心が高まるなか右肩上がりの成長を継続。今春夏期においても、クランチタイプやベイクドタイプ、ウエファースタイプ、グラノーラタイプなど、さらに多様化するタンパク質摂取ニーズに対応した充実の品揃えで展開する。

マルタイ
新社長に川島氏が内定

マルタイの代表取締役社長に川島英広氏（現西部ガスホールディングス㈱執行役員広報部長）が内定、6月開催予定の定時株主総会で取締役に選任された後、取締役会で正式に決定する。現代表取締役社長の見藤史朗氏は相談役に就く。

川島氏の略歴
▽1963年1月5日生 福岡県出身▽明治大学政治経済学部卒▽86年西部瓦斯（現西部ガスホールディングス）入社▽11年エネルギー統括本部お客さま・市場開発本部総括部長▽12年エネルギー統括本部お客さま・市場開発本部総括部長▽13年八仙閣代表取締役社長▽17年八仙閣代表取締役社長退任▽同年西部瓦斯理事就任、西部ガス興商（現西部ガス都市開発）取締役▽21年西部ガス都市開発取締役退任▽同年西部ガスホールディングス執行役員広報部長

国連WFP協会
ウクライナに緊急支援

国連WFP協会は、3月1日よりウクライナ緊急支援募金を開始、ウクライナ国内や近隣諸国へ避難している人々に緊急食料支援を開始したことを受け寄付による支援への参加を強くお願いするもので、3月9日発表では既に二億五千万円を上回る申し込みがあった。

ウクライナの一部などでは食料や飲料水の不足が報告され、市民の命と暮らしは重大な危機に晒されている。UNHCRでは既に42万2千人が近隣諸国に避難していると推定するが、避難時も長い待機時間や夜間に氷点下となるなど非常に過酷な状況が続いている。

国連WFPは食料支援を立ち上げ、人道支援活動の基盤となる緊急通信支援と物流支援も推し進めていく考え。

キリンビバレッジ
中部圏地区本部長に小林氏

キリンビバレッジの中部圏地区本部長（兼中部圏地区本部中部圏自動販売機支社長）に小林雅敬氏（前首都圏地区本部千葉・埼玉支社長）が3月30日付で執行役員として就任する。現中部圏地区本部長兼中部圏地区本部中部圏自動販売機支社長の谷井光一執行役員は近畿地区本部長に就く。

キッコーマン食品
中部支社長に三宅氏

キッコーマン食品の中部支社長に、三宅君人氏（現広域営業本部長兼広域営業部長）が4月1日付で就任する。現中部支社長の関真司氏は近畿支社長に就く。

エスビー食品
中部支店長に樋口氏

エスビー食品の中部支店長に樋口誠氏（現北海道支店支店長）が4月1日付で就任する。

中飲 食知る辺
名前は違えども

小麦粉や卵、砂糖などからなる生地を円形の金属の焼き型に流し込み、餡を挟んで焼きあげた和菓子は、「回転焼き」「今川焼き」「大判焼き」などと言われ、このエリアでは「御座候」「東海道」などの名でも呼ばれている。競馬場での「G1焼き」など場所や催事に合わせた名称も珍しくない。江戸時代に生まれたと言われ、長く親しまれている和菓子であるが、これほど各地で名称が違うものは珍しい。同様の材料・製法で作り形の異なる「鯛焼き」「どら焼き」は全国で名称がほぼ同じである。

現在放送中の朝の連続ドラマに登場したことで注目が高まり、現代はSNSが発達していることもあり改めて各地での異なる名称が話題に。思い入れがあることもあり、その名は絶対に譲れないとしている人が目立つ。金額の取れる商品ではないが強く愛されている証でありファンは多い。今の名前を引き続き大事にしていきたい。

たいまつ食品株式会社
本社 〒959-1794 新潟県五泉市村松1345
Tel.0250-58-6135㈹ Fax.0250-58-2845
ホームページアドレス
https://www.omochi.ne.jp